まんだら通信

第 191 号（通巻 227 号）

平成 24 年 05 月　西暦 2012 年　佛暦 2578 年　皇紀 2672 年

安房国八十八ヶ所　第一番札所
295-0103　千葉県南房総市白浜町滝口 1084
真言宗智山派　天神山　紫雲寺　髙橋　龍渉
郵便振替　00120-2-43163　紫雲寺
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040
http://www.shiunji.org/
Mail post@shiunji.org

年寄り笑うな行く道だ…

いつか読んだ永六輔さんの本にあった言葉です。

夏近く、開け放されている教室の窓から、海岸で焼いているカジメの、独特の匂いが漂ってきました。すると、もうすぐ弁当が食べられるなと、嬉しかったものです。

海岸から数百メートルの岩礁、ドロタ島のそばで、小さな船が艦載機の機銃掃射を浴びて、船員が海に飛び込む様子を、固唾を呑んで学校の松林から見ていたこともあります。

七十年近く前の出来事ですが、昨日のように憶えています。

それに引き換え、昨日のことはさっぱり。

今は時間がないけれども、いつか読めるだろうと、毎月買う本が、幕末以来の日本の歴史や、今流行りの原発問題、地球温暖化って本当なのというような話。

お隣のシナや朝鮮の歴史などその時々で内容は違うものの、十冊から二十冊。月々送られてくる雑誌は、宗教関係二冊やパソコン雑誌に正論とWiLLとボイスとMOKUの都合七冊。

でも実際は、ざるで水汲みをしているように、読んでも読んでもさっぱり頭に入りません。

探し物は、朝から晩まで、日課になっています。物覚えが悪く忘れっぽいのは若い時からですが、これほどではなかったとつくずく思います。

「あんたも、この年になれば分かるからな」と、以前は先輩に言われましたが、私も七十七歳になってみると、本当だなあと身にしみて分かります。

去年まで難なくできた軽い作業も、休み休みになりましたし、知らぬ間に耳が遠くなって、相手の話を何回も聞き返す始末です。

人間みんな、年取れば多かれ少なかれこうなるのだから、嘲り笑うのは将来の自分を笑うことになるのだよ。だから、そうなりたくなければ、今のうちから頭や身体を錆びさせないように心がけた方が良いよ…。というのが「年寄り笑うな行く道だ」なんですね。

お釈迦さまは、相手の身体の様子に応じて、一番相応しい薬を調合して全快させる名医にたとえられます。

そのお釈迦さまが、ヴリッジの村人にお説きなった教え『七不衰法』の中に「私が以前話したように、お年寄りを尊敬し、その言葉に耳を傾けることを忘れない限り、この村は栄え続け、衰えることはないだろう」というお言葉があります。

お年寄りは身体が多少不自由でも、長い年月蓄えた技術や、常識や知恵があります。

若い時には見過ごしがちな、人を思いやる心が、実は自分を幸せにする早道であるなどということは、年寄りだから言えることですね。

昔、家族が一緒に住むことが当たり前だった頃は、囲炉裏端や普段の暮らしの中で、人間としての生き方、「人の話を良く聞く」、「我侭を言わない」、「人生、やまない雨はない」などなど、人としての心構えを自然に伝えることが出来ました。

今月の『人情小噺』は、普段の何気ない会話が家庭を明るくする、まさにそのことを言っていますね。

でも、家族と離れて暮らすお年寄りもいっぱいいます。

それなら、パソコンを使えば万事解決です。南房総市ががんばってくれたお陰で、光通信という高速の電話回線が使えます。

連休で、お孫さんが帰ってきた人もいることでしょう。「あの時蒔いた朝顔が芽を出したよ。」と写真に写してインターネットで送れば、そこから会話が始ります。家族の絆って、黙っていたのでは丈夫になりませんし、家風も伝えられません。何気ない普段のやり取りが、いざという時に生きてくる、私はそう思っています。

電通総研が今年一月に全国の60～79歳の男女六百人に聞いたところ、60代で57%、70代で23%が友人・知人が増えた。知識が広がった。使って良かったと回答しているそうです。パソコンは難しいという人がいますが、ただそう思っているだけのことで、自転車と同じ程度の難しさというのが、私の正直な感想です。

余滴

◆中休みを挟んだ連休でしたが、家族連れの里帰りで、つかの間の親孝行をした人も多かったのではないでしょうか。

それにしても天候がさっぱりせず、晴れても気温が低いなど、絵に描いたような風薫る五月晴れになりません。

とはいうものの、久し振りに海岸に出てみると、ミヤコグサの黄金色に、ハマエンドウの紫など色とりどりに咲いていました。

◆寺田能化さまが総本山にいらっしゃる間に、是非ともお参りに行きましょうと、安房第２教区で相談して14日から2泊3日で行って参ります。

以前にも書きましたが能化（のうけ）とは、能（よく）化（け）することで、文字通りには、人を悟りに導く能力の第一人者ということですが、智山派では総本山智積院の住職ただ１人にだけ使う、親愛の心を込めた尊称…と思えば間違いないかと思います。

◆能化様のお寺、館山市沼の大寺こと總持院さまでは、教区のお坊様が集まり、古式通りに毎年『涅槃会（ねはんえ）』を行います。本当は2月15日ですが、今年は都合で先月26日でした。

この法要だけの特別な節をつけてお唱えしますが、「お釈迦さまを慕うこと母へのようであった」といわれた京都栂尾高山寺の高僧明恵上人の作曲です。来年お参りになれば、切々とした調べをお聞きになれます。◆お金を払えば、汗をかかずに楽に炊事など出来るようになって、誰も山に入りません。そのようなところを便りに生きていた野草たちも、ほぼ全滅状態です。スミレの仲間も例外ではありません。今月の野草は、多分ニョイスミレ【スミレ科スミレ属】です。ニョイは如意で、『原色牧野植物大図鑑』には「葉の形が僧侶の持ち物の如意に似ているから」と書いてありますが、これは多分牧野先生の思い違いで、反り返った花びらの形からついた名だと思います。　2012/05/08　龍渉

iMac 2.7GHz IntelCore i5（MacOS X 10.7.3）・ WordProcessor egword Universal 2.0.2・printer Xerox DocuPrint C3350・Camera Nikon D5000

にっぽん人情小噺

三遊亭鳳豊

第七十六話　キャリア

いまの大学生は大変だそうですね。

不景気が続くので、就職氷河期で、学生たちはもう、入学した時から就職活動をはじめているんだそうで。

そんななかで、九十パーセントを越える就職率を誇る大学がありましてね、それが、千葉県柏市にある麗澤大学なんですね。

私、ここのキャリアセンター長をなさっている真殿達という先生と親しくさせていただいている関係で、「いまどきどうしてこの大学の学生は、そんなに優秀なのか」と聞いたんですね。

すると、先生の答えはこうでした。

「いや、全員が優秀ではありませんよ。でも、その優秀でない、どうしようもない子を『決して見捨てない』というキャリアセンターの職員全員の精神が、たまたま就職率を上げているだけですよ」

たとえば、パチンコ屋でのアルバイトに熱心で、就職活動をまったくしない学生がいれば、真殿先生は呼び出し、こう言うのだそうです。

「おい、お前、臭うよ」

「なにが、ですか？」

「お前の体臭だよ。パチンコ屋で働くことは悪いとは言わない。立派な職業だ。でも、いまはお前はうちの学生だ。学生には、学生の臭いがある。まず、いったん学生の臭いに戻れ。そうしたら、これからのことを先生は一所懸命相談に乗ってやるから」

もちろん、臭うというのは比喩です。いわば、惰性に流されて生きているその学生の生活習慣をそう表現したのです。でも、学生は本当に体臭が臭いのかと思って、サウナに行って、きれいになってきます。体がきれいになることは、心が洗われることです。

そこから、先生は就職活動をさせます。もちろん、先生自ら全国を飛び回って、社長と直接話をします。もちろん、パチンコ屋で一所懸命働いたことがその学生の売り物だということを知っていますから、先生は正直に社長に話します。

すると、「体を汚して働くことを嫌がらない学生なら、うちでぜひ働いてください」と、彼は採用されるのです。

そんな先生が、ある時、自分の講義に私の落語界での兄貴分にあたる三遊亭円福師匠を呼び、「女性のキャリア」について講演させたんですね。前置きが長くなりましたが、今日はそのお話です。

百五十人は入る階段教室で行われたその時間、円福師匠は羽織、着物姿で現れます。

壇上には、いくつかの机を集め、その上にカーテンをかけ、そして、先生自らインターネットで注文して買った大きな座布団が、いまか、いまかと師匠に乗ってもらおうと待っています。

師匠が出囃子とともに入ってきます。拍手が起こります。

「えー、黒板に戒名が書かれておりますが、私は三遊亭円福という噺家でございまして、落語家なんですね。人生の落伍者なんてことも言われますが……」

全然、笑いが起こりません。授業に来たのに、突然、目の前に羽織姿の「先生」が座布団の上に座っているのですから、呆気にとられているのでしょう。なかには、珍しい動物を見るように、ジロジロ観察している女子大生もいました。

それにしても、真殿先生、「女性のキャリア」なんていう演題を師匠にやらせるんですから、さすがです。師匠も困っていましてね。

「えー、落語の世界というのは、だいたい、女性はおかみさんなんですね。まあ、落語のなかに出てきます働く女性といいますと、髪結いか、あとは花魁ですね。花魁、わかりますか。花魁というのは、遊郭で……。どうも言いにくいなあ、今日は。

ま、そういうところ、うーん、ですから、まあ、男性が女性を相手に遊ぶ場所がありましてね、そこに遊びに来るお客さんを騙すんですね。普通、騙すのは、狸か狐と決まっているのですが、尾っぽがなくても人を騙すっていうんで、尾いらん、オイラン、花魁と、まあ、そう呼ばれたって言いますが……」

教室は、シーン。

なかには、しっかりメモをとっている学生もいたりして。

まったく笑いの起きない雰囲気に円福師匠、頭を掻きながら、でも、髪結いのおかみさんとまったく働かない亭主を主人公にした「厩火事」という落語を演じてくれました。

話は、これからです。

講演から数日後、円福師匠が東京・両国の寄席に出演していたときのことです。

「師匠、お客さんです」と言われ、楽屋を出てみると、妙齢の奥さんが「円福師匠ですか」と丁寧な挨拶をします。

そして、その奥様、師匠に意外なことを言ったのです。

「師匠、先日、大学で落語の授業をなさったとか？」

「はい、麗澤大学というところでさせていただきましたが……」

聞けば、その方の子どもさんは、あのとき階段教室で師匠の落語を聞いていた学生のひとりだったそうです。

実はうちの息子は、いつもブスッとして、家ではほとんど口をきいたことがないんです。もちろん、夫と顔があっても挨拶ひとつしない。お恥ずかしい話ですが、わが家はいつも暗いんです。ところが、先日、珍しく、そんな息子が私たち夫婦に『今日ね、大学で落語家がきたんだよ。それでねえ……』とそれは楽しそうに話してくれたんです，これまで、学校のことはもちろん、何にも話さずに食事をしていたものですから、なんだかうれしくて、うれしくて。それで、どうしてもお礼を言いたくて……」

私はこの話を聞いたとき、真殿先生の楽しそうな笑顔を思い出しました．学生の就職活動で．一番大事なのは、その子の家庭に問題がないことです。

（あっ、そうか、先生のほんとうの狙いはここにあったか）と。

原子力発電所の運転について

去年3月11日の大災害で、日本中が「放射能怖い病」に罹っています。みんながそう思い込んでいるという点で、理屈が通らなくなっている集団ヒステリーです。

事実は広島・長崎では10数万人が即死乃至短期間で亡くなりましたが、ガンなどは極く僅かですし、遺伝はありませんでした。

ビキニ環礁の核実験で有名になった「第5福竜丸事件」で亡くなった無線長の久保山愛吉さんは、ガンなどではなく輸血が原因の肝炎だったということです。

被災者720万人の大災害チェルノブイリ原発事故では、五千人近くが甲状腺ガンになりましたが亡くなった人は15人だそうです。

去年の福島事故では、被ばくの死者はいませんね。

今、共産党を初め、左翼と言われる人達が音頭を取って「原発要らない」の世論が元気です。お陰で、電力会社は使えなくなった火力発電所を修理したりして、何とか補っているそうです。買わなくても良い燃料を輸入したお金は、年間3兆円とのこと。太陽光発電が救世主のようにいわれますが、向こう何年かは役に立ちません。

その間に失われる日本のお金は莫大です。

「子孫のために原発を止めよ」といっている人達は、企業の倒産など日本が貧乏になって福祉や教育やその他諸々ににお金が回らなくなった時、責任を取ってくれるのでしょうか。

iMac 2.7GHz IntelCore i5（MacOS X 10.7.3）・ WordProcessor egword Universal 2.0.2・printer Xerox DocuPrint C3350・Camera Nikon D5000